

①事業の基礎情報

事業名	地場産業振興事業				担当部・グループ名	都市政策部 地域産業グループ				
実施期間	平成 26 年度～平成 29 年度				担当 GL 氏名	板倉 宏幸				
新規・継続の別	継続事業				電話番号(内線)	52-1111(内線 273)				
縦覧計画 (基本計画) 体系	個別目標	(6)産業を活性化して、まちを元気にします				予算・事業上の 予算書上の 事業名	款	7款 商工費		
	こんなことに取り組みます	事業者・関係機関との連携を強化し、現場のニーズをふまえ、産業の活性化、雇用の安定に向けた取組みを進めます。					項	1項 商工費		
							目	2目 商工業振興費		
	みんなで目指すまちづくり 指標名	市内の法人数					事業名	2 地域産業振興事業		
現状値 (H25)	898	実績値 (H26)	922	実績値 (H27)	894	実績値 (H28)		目標値 (H29)	930	(単位) 社
総合戦略						■該当する □該当しない				

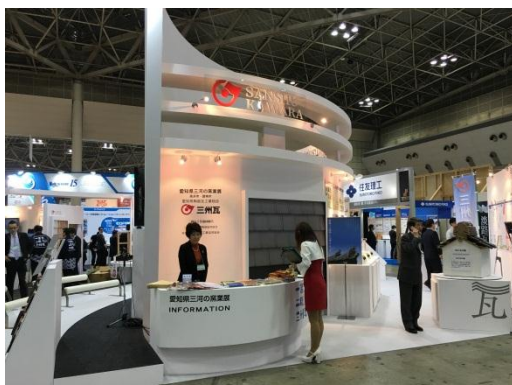
②事業の概要

目的 (何をどうするために)	★地域産業・地場商品である三州瓦の振興、販売拡充等活性化。		
対象(誰・何を対象に)	三州瓦企業者、利用者	対象の数量	
最終目標 (最終的に何がどうなれば達成か)	☆三州瓦製造等企業者を支援することによる、地域の活性化。 ☆三州瓦の産地として伝統技術・文化の継承。 ☆愛知県陶器瓦工業組合との連携による地場産業の振興。		



③事業にかかる事業費概要

平成 27 年度 (当初予算額)		決算額		主な内容	
事業費総額 (千円)		26,642	20,345		・負担金、補助金及び交付金 20,295 千円 ・印刷製本費 50 千円
財源内訳	一般財源	26,342	20,241		
	特定財源	国・県支出金	300	104	
		—	—	—	
補助事業・単独事業の別		補助事業	補助事業		



▲愛知県三河の窯業展 (東京ビッグサイト) の様子



▲被災地での瓦販売促進支援

#### ④平成 27 年度の実施内容（目指す姿の実現に向けて、どんなことに取り組んできたのかを整理する）

実施内容	何を・どのように・どうした ※箇条書きで記載する	いつ(年月)	アウトプット
	◆被災地での瓦販売促進に対する支援（補助）を行った。	H27.4～ H28.3	補助件数 262 棟
	◆瓦販売促進に向け、市内利用者に対しての支援（補助）を行った。	H27.4～ H28.3	補助件数 63 棟
	◆公共建築物等三州瓦屋根工事奨励補助金により高浜港駅舎の新築駅舎に瓦が使われるよう名鉄と協議し、建設につなげた。	H27.4～ H28.3	高浜港駅 H28.3 完成
	◆販路拡大に向け、展示会等への支援を行った。	H28.3	来場者数 20 万 8 千人
	◆ふるさと名物応援宣言で三州瓦を応援した。	H27.9	「三州瓦」宣言
	◆B-1 グランプリにおいて三州瓦のPRを実施した。	H27.10	来場者数 33 万 4 千人
	◆ふるさと名物応援宣言に伴う制度等説明会を愛知県陶器瓦工業組合員、および高浜市商工会会員を対象に開催した。	H28.2	出席企業数 22 企業
	◆新たに造園による瓦材活用の補助対象拡充の検討を行った。	H27.4～ H28.3	制度の施行 H28.4～
◆鬼瓦の伝統的工芸品化に向け国・県・かわら美術館・文化スポーツG、鬼瓦業界と連携し指定に向け検討を行った。	H27.12～	検討の継続中	
参画・協働・ 情報共有の工夫	★名鉄との協議において、地域の瓦業界の希望や思いを確認し、「鬼みち」の出発点としてふさわしい駅舎の実現を情報共有した。		
	★地元企業が開発した商品を国のプロジェクトに推薦するなど、ブランド化に向けた取り組みを業界と連携して実施した。		
	★国・県・かわら美術館・文化スポーツG、鬼瓦業界と連携し、それぞれの役割を担いながら伝統的工芸品の国の指定取得の検討を行った。		
進捗状況	計画的に事業の進捗を図ることができた。また、次年度に向け効果的な支援を検討することもできた。		
実施内容に 対する成果 (事業の自己評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 国の制度を活用し、支援をうけることでブランド化への取り組みが浸透しつつある。</li> <li>☆ 業界内においてもあたらしい方向性の検討を積極的に検討する風潮がうまれてきた。</li> <li>☆ 商工会・瓦業界と連携し駅舎の瓦使用実現に向けての協力体制を築くことができた。</li> <li>☆ 市内の瓦利用増進に対する取り組みが順調に進んでいる。</li> </ul>		

#### ⑤課題と今後の取組みの方向性（平成 27 年度を振り返り、課題を抽出し、今後の取組みの考え方を整理する）

課題	今後の取組みの方向性
<b>(1) 三州瓦需要の向上に向けた取組み</b> ・瓦業界全体における三州瓦のシェアは約 70%と安定しているが、住宅着工件数における他の屋根材との比較における瓦の利用率の減少が課題となっている。	・屋根材として瓦が優れている点の効果的なPR方法を業界内で検討し、国内外への販路拡大等による販売促進などの消費者の目に付く場所での地道なPR活動を行っていく。
<b>(2) ブランド化、伝統産業としての価値の創出</b> ・鬼瓦など、一般家庭での設置の減少に歯止めをかけ、販路開拓のためのブランド化や商品開発が必要である。	・国のプロジェクトに鬼瓦を推薦し、クールジャパンを意識した「屋根からインテリアへ」実現した商品（鬼瓦家守）の開発など、三州瓦のブランド化への取組みを支援する。
<b>(3) 新しい屋根材の台頭や住宅着工件数の減少対応</b> ・過去 2 度の震災による瓦に対する風評被害の払しょくが必要である。	・屋根瓦の優位性を再度PRしていく。

#### ⑥課題解決に向けた平成 28 年度の具体的なアクション（案）

計画(案)	何を・どのように・どうする ※箇条書きで記載する	いつまでに (年月)
	◆被災地での瓦販売促進に対する支援（補助）を行う。	H29.3
	◆屋根材及び庭のエクステリアの瓦材の市内瓦利用者に対する補助を行う。	H29.3
	◆三州瓦のブランド化に向けた国の制度の活用、商品開発支援を行う。	H29.3
◆効果的な三州瓦PR活動について業界との協議を行う。	H29.3	
参画・協働・ 情報共有の工夫	☆業界が責任を持って実施する販売促進事業に対して、相談を受けながら、より効率的なPR・戦略となるように助言を行いながら支援を行う。	

特記事項